

四 奉仕當番
西 柴 山 村 兄、姉、弟、妹
柴 山 村 兄、姉、弟、妹

日曜禮拜次第 十時十五分

「我等この實をもちてり」
本 田 牧 師

國民儀禮 (靜思) 畑とみ子姉

主の使徒信經 五六六

讀美 三二七

祈禱 三二七

聖書 五八七

説教 三〇七

美 三二八

歌 三〇七

金 三二八

告 三〇七

禱 三二八

奏 三〇七

奏 三二八

(禮拜後長老會)

日本基督教團 廣島流川教會 禮拜の序

【彙 報】

◆部制解消

完全合同認可さる

昨年第一回總會に於て可決事務當に認可申請中の部制解消完全合同に關する件は去る八日會を以て認可さる。これによりて、日本基督教團はその過渡的存在たり部制を解消して、これに完く一つの教會となつてその充分統制ある活動を開始する事となつた。誠に同慶の極である。我等は布教指針の主旨に添ひ益々宗教報國の實を擧げんことを誓ふものである。

◆聖旨奉戴基督教大會

昭和十七年十一月廿六日は日本基督教史に特筆大書さるべき日である。しかしてこの日より日本基督教は新なる出發をなしたと云つて然るべきであらう。我が教會はその感激を全國教徒に傳へ、願はん爲め特に聖旨奉戴基督教大會を我が教會に開かる。全員出席以て聖旨にこたへ奉らん事を切望して止まない。

◆昭和十八年の標語

「汝の内に得たる神の賜物をますます熾にせよ」
デモテ後書一章九節

四月婦人會當番 高 木 姉、神 谷 姉
佐 久 間 姉、神 谷 姉

本日 禮拜當番 栗 屋 兄、鹽 治 兄、鶴 高 姉、元 吉 姉
澤 野 姉

今夕の傳道會 【於小講堂】 午後七時半

「簡易基督教々理」 本 田 牧 師
「我は聖靈を信ず」とはどんな信仰であるか、聖靈の體得が基督教の眞理に參入させる。是非御來會下さう。
新讚美歌指導 新 田 先生

今週の集會

◆聖旨奉戴基督教大會 於 當教會禮拜堂
二十一日(水) 午後七時半
富田統理閣下臨席講演

◆廣島縣市聯合修養懇談會 於小講堂
二十日(火) 午後より廿一日正午まで
澤村五郎先生指導

◆前編 回顧

禮拜「みあとにつづく」 男 二 女 一〇名 計 一二名
夕拜「簡易基督教々理」 男 二 女 一〇名 計 一二名
祈禱會 男 二 女 一〇名 計 一二名
家庭會(三) 男 二 女 一〇名 計 一二名
禮拜獻金 七圓八拾錢
記念獻金 岩本みつ姉

禮拜後新讚美歌の練習を致します。

皇紀二六〇三年 教 會 廣 島 市 上 流 川 町
昭和十八年 牧 師 館 職 町 一 三 四 (電 中 六 〇 八)
四月十八日發行 牧 師 館 (每 火 曜 日 終 日 館)
面 接 日 於 牧 師 館

【教 友 消 息】

- ◆富田統理者 來る廿一日聖旨奉戴大會臨席のため
來廣廿二日まで滞廣の筈。
- ◆相原文部省宗教友 同上
- ◆鈴木教團總務局長 同上
- ◆松本院長 九州方面の旅行を終へて無事歸廣さる
- ◆山縣地方主任 十三日我が教會を訪問さる。
- ◆宮島教師 過日大竹海兵團の學校關係者訓練會に出席され歸學さる。
- ◆後藤友子姉 外世子姉を偲ひ上京中。

◆婦人會の

昭和十八年度新役員決定す

- 會 長 吉 村 國 子 姉
- 副 會 長 高 木 敏 子 姉
- 書 記 元 吉 琴 野 姉
- 會 計 古 賀 美 津 姉
- 同 顧 問 吉 村 國 子 姉
- 高 木 敏 子 姉

來 週 禮 拜 當 番 西 村 兄、平 岩 兄、柴 山 へ 姉、林 姉
松 田 兄、佐 藤 姉
▽ 牧 師 本 田 正 一